パンのある幸せな食卓を 103

水かけ祭りに初参加

文 木村安兵衛
text by Yasube Kimura

今年の夏に人生初の水かけ祭りなる物を体験しました。四捨五入すると60歳に達する年になるとなかなか人生の初体験をするということはあまりありません。しかし今回は体験してしまったのであります。

今年の6月に6年ぶりの日枝神社山王祭が執り行われました。山王祭は江戸三大祭りとも日本三大祭りとも呼ばれる格式の高い祭りであります。私はその祭りの中の日本橋1丁目の神輿（みこし）責任者を預かることとなりました。

その時のご縁で今回の深川神明祭の神輿を担がせて頂く機会を得ることができました。

「祭りっていうのは役職が付けばつくほど神輿を担ぐ時間が短くなる。日本橋と違い、深川ならば周りは知らない人ばかり、しがらみなしに単純に神輿を楽しめるぞ」

なんという含蓄に溢れた言葉なのでしょう。いわれてみれば過去数回にわたって神輿を担ぐ時間は短くなってきたのであります。特に基頭を務めた今年は2日間で5分程しか神輿を担ぐチャンスはありませんでした。

深川の祭りは集合が朝の6時。一瞬何かの間違いかと思う時間であります。神輿を担ぎ始めると周りの歩道からはホースや桶で水をぶっかけられ洗礼を受けることとなります。水かけ祭りに不慣れな私は半纏（はんてん）をパリッと立てての着こなしを大切にしておりました。しかし四方八方から襲ってくる水によって半纏はグショグショ、耳や鼻の中までもがビショビショになってしまうのでした。

いざ着こなしから解放されると、何も気にするものはなくなり、急に楽しくなってきます。40度近い気温の中、水をかけ合って「わっしょい！わっしょい！」と神輿を担ぐ様はまさに大人の水遊びであります。水でダボシャツや半股引はスケスケ。でも「もういいや！もっと水かけてこい！いっそのこと放水車でも持ってこい」となってしまうのでした。お振舞いの唐揚げやサンドウィッチにも容赦なく水は襲いかかってきます。普段は食べることにはうるさ型の私にも濡れたサンドウィッチは美味しく楽しいものとなるのでした。

深川の祭りのかけ声は「わっしょい」です。

「そいやそいや」ではないところも正統派っぽくて魅力であります。「わっしょい」の店舗が四分音符から八分音符に変わるようにテンポアップしてくると「神輿をさせ」の合図。頭の上に神輿を上げるのです。

神輿が終わると照り付ける暑さとぶっかけられた水が、神輿を担いだ心地よい疲労感に追い打ちをかけます。神事が終わった清い体にビールやお神酒が染み込むと…一つ瞬きをしただけなのに朝になっているのでした。

Profile

1969年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、千代田生命保険相互会社に入社。その後アメリカで唯一のFDA（米国食品医薬品局）研究機関である米国立製パン研究所へ留学、ベーキングサイエンスを研究する。ニューヨーク、フランスにて修業を積んだ後、その腕前と経営センスを見込まれ、エリック・カイザーの在日パートナーとして、2000年に株式会社ブーランジェリーエリックカイザージャポンを設立。2001年メゾンカイザー1号店として東京・高輪に店舗をオープンし、2021年3月末時点31店舗を数える。